

第1回文化審議会が出された意見の
第2回文化審議会への反映・対応事項（まとめ）

第1回文化審議会が出された意見（議事録順に整理）を踏まえて、第2回文化審議会開催にあたって、運営や資料作成等について、下記のとおり反映・対応しましたので、ご報告します。

以下が、反映・対応した内容です。

三重県文化審議会事務局（文化振興室）

（1）新しい文化振興策の考え方について

- 文化芸術分野に加えて生涯学習分野などの近接分野も含めた検討を行うとあるが、近接領域はどこまで広げるのか。
「三重の文化振興方針（仮称）」第1章に、近接領域の範囲、文化振興との関わりについて記述することとしたい。これを検討するため、資料5、資料5 - 5を作成しました。
- 近接領域の所管部局との関係はどのように整理されているのか、またそれらでは「文芸振興方策」のような計画等は作成されていないのか。
近接領域の所管部局との関係は、資料5 - 5を作成して整理するとともに、生涯学習基本計画等関連する計画を、今回委員の皆さまに送付しました。
- 文化振興を幅広く考えた時、伝統技術の継承・発展、人材育成等の観点から、産業との関わりについて検討していくことが大切であるが、このことも検討対象と考えてよいか。
資料5 - 5をもとに、「三重の文化振興方針（仮称）」の第1章に近接領域をどのように捉えていくかの考え方を記述することとしてはどうかと考えています。（資料5）
- 各文化施設が、それぞれどういう企画・発信をしていくかを考えることが重要であるし、それを県民に分かりやすく提供することが大切である。
主に「文化振興拠点部会」の資料となりますが、今回の資料3 - 4を作成するとともに、資料3 - 5として図書館や博物館などの年報・要覧を同封しました。
- 今後、関連部局・各分野の情報を十分理解した上で、これから博物館のあるべきすがたを示したい。これらの検討を進めていく上で、様々な情報（各分野の振興計画等、各文化施設の活動の状況や課題等）を、資料として出してほしい。
必要な資料は幅広く収集して、委員の皆さまに提供することとし、今回は、生涯学習基本計画など関連計画などをお送りしました。

また、今後は、膨大な資料を扱うこととなりますが、検討のために収集・作成した資料には、「資料番号」を付け、それらの資料の前提又は関連する資料は、「参考資料」として扱い区別することで、ポイントを得た検討が行えると考えています。

(2) 部会の設置について

- 文化振興拠点部会について、民間も含めて幅広く多様な施設を対象に考えると、さまざまなレベルのものが混在することになるが、そうしたものも含めて検討していくのか。

拠点対象を検討していくための資料として、[資料3 - 2](#)を作成しました。

- 新しい文化振興のすがた部会は、他の2部会と比べて、やや異質な存在と感ずる。

もともと新しい文化振興のすがた部会は、「はじめに」、「第1章」の記述内容の検討を行っていくために部会設置を検討しましたが、他の部会と少し位置づけが異なるうえ、全体会で検討することが可能であることから、設置をしないこととしてはどうかと判断し、今回の[資料1](#)を作成しました。

- 部会相互の情報共有が必要である。自由に他の部会へ参加するとか、部会長だけでも他の部会へ参加するなど、オープンなかたちで進めることはできないか。

この意見を受けて、今回の[資料1](#)のような部会運営の考え方に修正を行いました。

- 「三重の文化振興方針（仮称）」という総論と各部会の各論が、頭の中でうまく結びつきにくい。審議会と各部会の議論をどのように矛盾なく結びつけることができるか心配である。

部会の検討結果が、「三重の文化振興方針（仮称）」の構成上、どこに反映されるのか、[資料2](#)のなかで表しました。

- 文化振興拠点部会の議論をしっかりと行い、施設連携の枠組みを位置付けてから新博物館のあり方を議論する方がよいと思う。

文化振興拠点部会を続けて2回開催した後、新博物館部会を2回開催するよう変更してはどうかと考えました。

- 部会ごとに検討事項を示してあるが、抽象的である。もっと具体的でないか、何を検討していけばいいのかよく分からないし、1～2回の議論では足りないのではないか。

部会検討の流れのイメージを共有しながら、検討の項目、進め方について、意見をいただけるように[資料3](#)（文化振興拠点部会）、[資料4](#)（新博物館のあり

方部会)作成しました。

- ・ 「知の拠点」とあるが、どういうことか。きちんと整理しておかなければならない。
文化振興拠点部会において、各施設の定義、目的、理念、事業内容などを整理するなかで、機能や役割分担について意見交換していくため、[資料3 - 2](#)、[資料3 - 4](#)を作成しました。

(3) 検討の進め方について

- ・ 新しい文化振興のすがた部会は、内容も広く、今ひとつイメージがつかみきれない。議論なしでメールによる意見の聞き取りだけでまとめられるのか。
「新しい文化振興のすがた部会」の設置目的を検討した結果、全体会のなかで対応が可能であるとして部会としての設置をしないこととしました。
- ・ 短期間で審議会から答申を出すことについては、委員の立場からすると、大きな責任とリスクを伴うものになると思う。短期間であっても、十分な検討時間を確保してほしい。できないなら、骨子案は、本当の骨だけにしてほしい。
 - ・ 事務局としては、時間がないことは大変申し訳ないと考えていますが、現在の社会や行政の展開の早さから行っても、良い結果を生むためには、好機に一気にまとめていくことが、必要だと考えており、できるだけ機会と時間を増やすとともに、やり方を工夫して、検討をすすめていきたいと考えています。
 - ・ このため、第2回の開催時間は、「3時間」とさせていただきました。
 - ・ また、第1回で出された意見の反映として資料作成などを行い、どの点を反映したのか、を明確にしました。
 - ・ あわせて、部会の検討については、今回[資料3](#)(文化振興拠点部会)、[資料4](#)(新博物館のあり方部会)として検討項目と検討のための資料作成の考え方を示して意見をお聞きし、効果的な部会運営を工夫したいと考えています。
- ・ もう一度全体会を開いて検討してから、各部会で検討を始めてはどうか。
本日(8月8日)に開催させていただきました。
- ・ これまでの教育委員会における博物館構想についての検討結果を次の議論にどう生かしていくのか。
今回の[資料4 - 2](#)として、これまでの検討結果を整理した資料を作成するとともに、第1回の新博物館のあり方部会までに、これまでの基本構想、提言などを配布します。

